

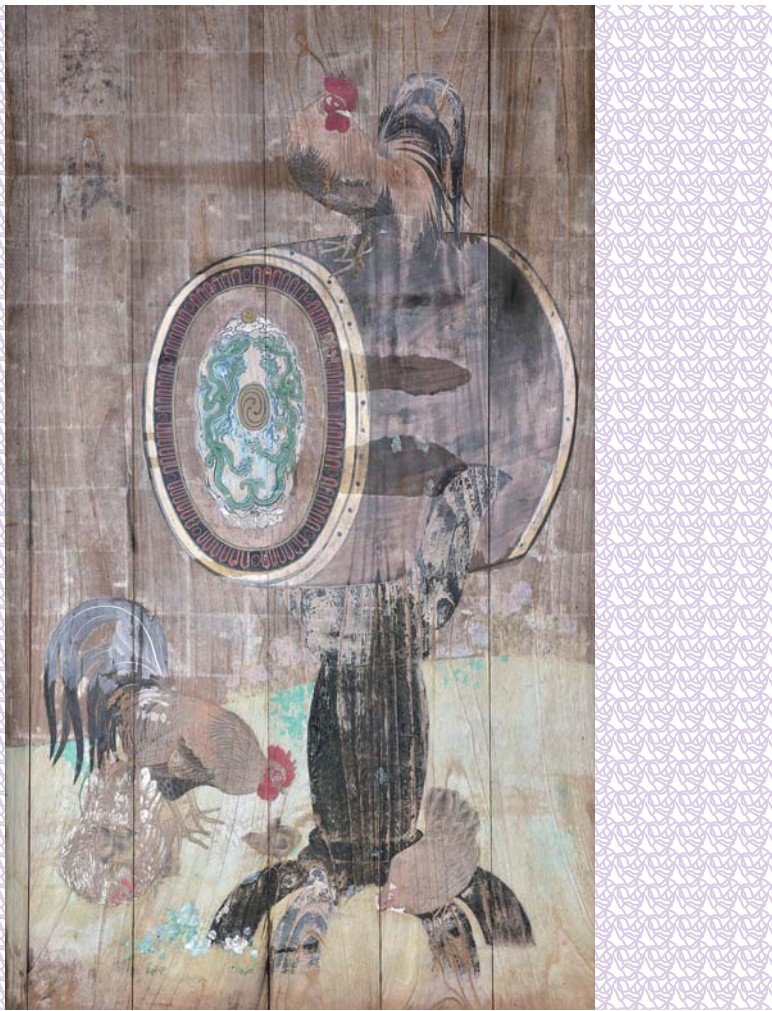
鹽竈十福

発行所 〒985-8310 塩竈市一森山一番一号

志波彦神社 社務所
鹽竈神社

電話 〇二二三六七一六一(代)
FAX 〇二二三六五〇五五三〇

http://www.shiogamajinja.jp/



長鳴鶏と太鼓図絵馬、弘化五年(一八四八)正月二十八日、飯川勤奉納

鶏鳴一声

天の岩屋戸の神話には、「天照大御神が天岩屋戸に御隠れとなり、世は闇に包まれて様々な災いがやってきた。八百万の神々は天安河原に集まれ御相談、思金神の思案によつて先ずは常世の長鳴鶏を集めて鳴かしめた。」とある。鶏は早朝に鳴くので、鶏の鳴き声には日神を呼ぶ力があるとされた。今でも、伊勢の神宮では鶏を放し飼いにしているし、同様の神社もある。これらは長鳴鶏に由来する。

太鼓は、楽器であり時を知らせる道具でもある。この絵馬に描かれている鶏と太鼓、どちらも時を知らせて邪気を去るとされ、吉祥の組み合わせとなる。

絵馬が奉納された弘化五年(一八四八)の時代背景は、英・仏・蘭・米、各国の船が次々と来航し日本に通商などを要求、幕府はこれを拒否し外国船対策として海防掛を常設するに至る。そして遂に嘉永六年(一八五三)、ペリーが黒船を率いて浦賀にやってくる。太平洋に面した塩竈の人々にとつても外国船への防備は現実のものであり、日々危機感を募らせていた。そんな時代にあつて絵馬に籠められた願いとは何だったのか。暗雲立ち込める海の彼方から来る災いを、日神の大神威によつて払い除けんとこの切なる願意だつたらう。その為にこそ、先ずは長鳴鶏と太鼓が必要であつた。

昨年からの世界情勢を鑑みる時、かん高き鶏鳴一声、日本に襲い来る邪気の撃払われんことをひたすら願ひばかりである。





年頭にあたり

志波彦神社 宮司 鍵 三夫

平成二十九年(皇紀二六七七年)の新春を寿ぎ、御皇室の弥栄と御国の安泰を御祈念申し上げます。

氏子崇敬者各位には、旧年中、当社の神事・諸行事に御理解と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。次第であります。

昨年の度重なる地震や台風による被害に遭われた皆様方に衷心より御見舞い申し上げ、いち速い復興・復旧をお祈り申し上げます。

げます。

さて、平成二十七年度に創設された「日本遺産」に、政宗が育んだ「伊達な文化」を構成する文化財の一つとして、鹽竈神社御社殿、帆手祭・花祭、歴代藩主奉納太刀、籬が島が選ばれました。

伊達政宗公は文化的に上方に劣らぬ気概で、東北の地に根付いていた文化の再興を目指しながら、伊達家の伝統的な文化や

上方の豪華絢爛な桃山文化や、さらには海外に目を向け自らの「都」仙台を新しく創りあげようとした。その姿勢は、次代の藩主に受け継がれ、四代綱村公、五代吉村公による鹽竈神社社殿造営に顕れたと言えるでしょう。

以来、歴代藩主の崇敬厚く藩主治世の始めには太刀が奉納されるなど、鹽竈神社への志は脈々と続きます。又二十年に一度

の式年遷宮も途切れる事無く執行され、平成二十六年には第十八回式年遷宮事業も無事終了しました。

悠久の昔より一森山の神奈備に鎮まります「鹽竈さま」の御神徳は、伊達家の篤い崇敬の念により更に弥益し東北の地に遍くいきわたることとなりました。現在着工中の門廻廊修復工事が完工した暁には、その大御後威は造営時を凌ぐほどに一層荘厳に輝くことでしょう。

年始にあたり氏子崇敬者各位の安寧と弥栄を祈念いたし、年頭の辞と致します。



新春を迎えて

塩釜商工会議所 会頭 桑原 茂

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えの事と心よりお喜び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、日本各地は多くの天変地異に見舞われた年でありました。被災地の皆様に御見舞い申し上げ復旧が一日も早く進みます事をお祈り申し上げます。

さて私共塩釜商工会議所では、一昨年に続き昨年十月に一ヶ月間塩竈のまちを会場に「みなと塩竈・ゆめ博」を開催致しました。「みなと塩竈ゆめ浪漫、食べて、遊んで、歴史にふれて」をテーマに、塩竈の歴史・文化に触れる「まち歩き」や、地場産品を味わい体験することで、塩竈の魅力を描能できるイベントとなりました。

開催にあたりましては、市役所や市民の皆様をはじめ、多くの商店や団体、そして海上保安本部、自衛隊、さらには志波彦神社鹽竈神社様の御協力を得られましたことに対し、改めまして御礼申し上げます。

イベントの一つであります塩釜市青年四団体連絡協議会主催

の「しおがまさま神々の月灯り」では、広大な神域がロウソクの灯でライトアップされる中、琴や琵琶、神楽や雅楽の音色が響きわたり、約六千名の参拝者で賑わいました。「みなと塩竈・ゆめ博」が、まちの更なる活性化や市民の皆様への活力となることを願ってやみません。

塩釜商工会議所は昨年七十周年を迎え、新たな歩みを始めました。「鹽竈さま」の御加護を頂き、更なる飛躍の年となりますよう願う所存であります。

結びに皆様の益々の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。御挨拶と致します。

謹みて新年のご祝詞を申し上げます

平成二十九年 丁酉 元旦

志波彦神社 鹽竈神社

代表役員

宮司 鍵 三夫

責任役員

阿部 久壽 横田 善三郎 阿部 勘九郎 佐浦 弘一 鈴木 雄一

権宮司

野口 次郎

総代会

総代 一同

氏子崇敬会

会長 鈴木 雄一

祭典委員会

委員長 和田 忠



年頭の御挨拶

塩釜警察署長 横山 裕

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、輝かしい新春を迎えられましたこと衷心よりお慶びを申し上げます。

東日本大震災から五年目となる平成二十八年三月に署長として着任いたしました。

着任後、道路の改修や津波避難デッキの新設、沿岸線の防潮堤工事等、復旧復興に向けた作

業が継続的に続けられる状況を目の当たりにして、震災復興へ

県民とともに歩む警察として、その重責を果たすべく決意を新たにいたしましたところであります。

また、着任早々に参列させていただいた志波彦神社例祭を始め、花まつり、みなと祭等において、神聖な拝殿で地域の安全とお祭り警備の完遂をお祈りすることができ、厳粛な気持ちに

なりましたことを覚えております。管内二市三町の治安情勢については、犯罪の抑止・検挙、交通事故の防止等の警察諸活動を推進した結果、治安維持に關し、一定の成果を上げることができたと考えております。

しかしながら、女性をねらった痴漢の発生や生活に身近な乗り物盗が増加するなど、体感治安に対する満足度は、十分とは

言えない状況でありました。塩釜警察署では、安全・安心な地域社会の実現のため、本年も、署員一丸となって治安維持に取り組んでまいり所存でありますので、引き続き御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今後も二市三町が犯罪や事故のない安全で安心して暮らせる町となること、そして志波彦様、鹽竈様の御加護の下、皆様の御健勝と御多幸を祈念申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。

敬神婦人講 宇仁 一美



機智との出会い

学校法人仙台育英学園

理事長 加藤 雄彦

新春の日差しほのかな暖かさを背中に感じながら、鹽竈様への初詣に参りますと、何か心が落ち着く思いがします。柏手を打って、静かに手を合わせ、新しい年との出合いを感謝し、一年の歩みの無事と安寧を願うことができた幸福感が自然に湧

いて参ります。皆さま、明けましておめでとうございます。

今から九三〇年前の昔、奥州の覇者藤原秀衡公の三男である和泉三郎忠衡が寄進した「文治灯笼」を俳聖松尾芭蕉が拝見された際に、芭蕉は忠衡のことを、

最後まで源義経に付き従った「義勇の士」と称え、『おくのほそ道』に記しました。芭蕉が訪れた約三三〇年前の時代は、関ヶ原の合戦から九〇年経った元禄文化が花開き、庶民感覚も大幅に変化し、「生きる楽しみ」を模索するご時世でした。

その中であって、平安時代から脈々と受け継がれてきた伝統的な価値観を大切にしながらも、機智を働かせて、これまで存在しなかった俳句の境地を創造し、一般の人々が自然に楽しめる俳句の世界の扉を開ける偉業を成し遂げたのが芭蕉でした。

芭蕉が荘厳華麗であると認められた鹽竈様には、学校教育の世界で生きている者に勇気を与えてくれる機智の力を感じます。今年も良いお年になりますようにお祈り申し上げます。



御神田奉齋会

役員一同

鹽竈神社博物館審議委員会

委員一同

節分祭年男男女世話人会

会長 佐藤 武志

氏子青年会

会長 千田 忠一

新嘗祭齋行

十一月二十三日、一年の収穫を大神様に感謝する新嘗祭（産業振興大祭）が、氏子崇敬者五十名の参列のもと齋行されました。

去る九月二十四日には抜穂祭が斎行され、ササニシキが収穫されました。

新嘗祭当日は、祭典と平行して、御神田米をはじめ蒲鉾や清酒などの地場産品の数々を満載した奉曳車を曳いて御神前にお供えする「初穂曳」も実施されました。



初穂曳き

籠を出発した奉曳車は八百人の氏子の奉仕により、寒気の厳しいなか、塩竈市内を奉曳し志波彦神社大鳥居前まで曳き上げられました。

その後奉献品は一人ひとりの手で御両社御神前に丁寧に供えられました。

志波彦神社の門内を初穂曳奉仕者が埋め尽くす中、児童による木遣りの奉納や神楽朝日子の舞」が奉奏されました。祭典後、神社より奉仕会内形繁夫事務局長に曳入証が授与され、祭典の一切を終えられました。

新嘗祭齋行に際し、左記の方々から各種産物を奉納頂きました。ここに御芳名と献備品を御紹介いたします。

（品目別・順不同・敬称略）

白米

新嘗祭奉献者御芳名

- 宮城県農産協同組合中央会・仙台農業協同組合多賀城支店・(株)白寿殿・和田電気工事(株)・小柳建設(株)・鈴木邦彦



献備品

稲穂

大場一美

酒類

- 阿部勸酒造店・(株)一ノ蔵酒類販売・(株)佐浦・麴屋酒造店・丸福(株)

鮮魚

- (株)塩釜魚市場・塩釜市魚市場卸売協議会・塩釜地区船舶漁業協同組合・塩釜市魚市場問屋協同組合・塩釜市魚市場買受人協同組合・塩釜市水産振興協議会・丸市冷凍(株)・(株)ワタベ魚類・(有)三勝商店・ヤットハチ鈴木水産(株)・(有)三ツ扇・(株)菊池商店・(株)魚刀商店・(株)渡會・(有)大漁水産(第三十一太漁



献魚

- 丸・脇光二(第十二光丸)・(有)大黒丸水産(大黒丸)・(有)末廣水産(末廣丸)・(有)仁庄水産(三三六号仁庄丸、六十八号仁庄丸)・共和水産(第八光洋丸、第二十八光洋丸、第二十三海幸丸、第三十七海幸丸)・(株)紀国谷商店

蒲鉾

- マルブン食品(株)・(株)カナサその後藤商店・(株)カナマス伊藤商店・(株)阿部善商店・(株)カネコ橋沼商店・(株)シーフーズ赤間・(株)まるご・(株)ヤマス蒲鉾店・(株)阿部平蒲鉾店・(株)高浜・(株)小島蒲鉾店・(株)大膳・(株)武田の笹かまぼこ・勝山水産(株)・水野水産(株)・(株)直江商店・(有)カネイ伊藤商店・(有)マルヨ鈴木商店・

海産物

- (有)松島蒲鉾本舗・(有)増友商店
- (株)塩釜水産食品・(株)丸大食品・岸柳水産(株)・(株)明豊・(株)間宮商店・(株)ヤママサ・(株)ヤマカ勝又商店

野菜・果物

- (株)塩釜地方卸売市場・八百大分店・北浜フードセンター・(有)八百照・鈴木正勝・鈴木節子・山田宏・千葉洋一

菓子

- 丹六園・(有)サントノーレ洋菓子店・(有)ヤマギシ洋菓子店・(有)土井精菓・(有)榮大楼・(有)梅花堂・海鮮せんべい塩竈(株)

その他食品

- 大田與八郎商店・(株)阿部亀商店・塩釜寿司業組合・シヨップサトー・プリンス食品(株)・(株)松田製粉・十字屋(株)・蜂屋食品(株)・えびや・理研食品(株)・(株)アベチヨウ・(株)東日本ソルト仙台営業所・山内松閑

肥料

- 片倉コープアグリ(株)東北支店

鹽竈講社だより

去る十月九日より十一日にかけての三日間、講社大祭が盛大に斎行されました。祭典には県内各地のほか、全国より多くの講員が参拝されました。

その折、永年の継続講員に対し表彰状と記念品が贈呈されましたので、御芳名を紹介いたします。

また、退任される世話人へ感謝状が贈呈され、新任の世話人へ委嘱状が交付されました。

嘉津良比祭斎行

去る十二月一日、鹽竈神社左右宮において特殊神事「嘉津良比祭」が斎行されました。

この神事は、「勝来祭」「神迎祭」とも呼ばれ、鹽土老翁神と共に陸奥国を開拓平定された武甕槌神・経津主神を塩竈に招来し、その御神徳を讃えたのが始まりとされます。

御神前には雉・アワビ・黒ソイ・昆布・若布・勝栗・吊し柿などのほか、櫛の葉に紙垂を結わえた「ミカツライ」、そして「兜餅」がお供えされ

た。併せて御紹介いたします。

(敬称略)

平成二十八年度

継続講員表彰者

◇八十年表彰

菊田 きよ子・三浦 康市

加藤 篤・稲辺 彰

◇七十年表彰

阿部 利男・阿部 友宏

佐藤 保代・赤井 襲造

「兜餅」は、一升の餅を七つ取りにし、これを兜のごとく重ねて頂部に蕪をのせたものです。餅を供えるのは、凱旋した武將らが餅を搗いて部下たちと分かち合ったことに由来するとされ、小割りして携帯すれば旅中の災厄を防ぐとも言い伝えられています。



兜餅

戸枝 静枝・板橋 繁行
佐々木 一彦

武藤 清吉・藤原 義光
上野 幹子

大槌支部(五名)
佐藤 南海六・黒澤 高明
柏崎 喜一・照井 佐貴子
吉里吉里大神楽保存会

秋山 昭寿・千葉 紘一
齋藤 庄治・西畑 玲子

岩出山講(二名)
栗生 朋恵

洗心講(十三名)
高橋 利光・佐藤 久美
千賀 誠・蜂谷 康

尾形 公夫
大槌支部(二名)

大槌支部(五名)
吉田 よし子・齋 清志

星 矩之・須貝 静江
滑川 晋・塚野 美奈

佐々木 紀子・倉本 忠夫
東京城南会(一名)

大槌支部(二名)
倉本 門太郎・小国 町子

瀬戸 雄二・鈴木 秀逸
曾我 耕成・木島 てる子

大平 美和子
◇五十年表彰

戸島 隆志・戸島 久代

遊佐 世津子

鈴木 廣治・松谷 庄助
佐藤 とも江・片倉 幸子

洗心講(一名)
遠藤 盛雄

退任世話人(四名)
菊池 一夫(多賀城地区)

大原原支部(四名)
大沼 秀一・斉藤 修

◇二十年表彰
丹野 浩二・柴原 和子

阿部 理明(石巻地区)

丸山 ヒサ・高橋 三郎

大原原支部(三名)
齋 清隆・佐藤 正夫

新任世話人(一名)
佐藤 忠浩(多賀城地区)

◇四十年表彰
佐々木憲治郎・八巻 國夫

◇十年表彰
堀江 千鶴子・宮崎 晴流

大宮司 庄八(松島地区)

鈴木 正敏・井上 節子
佐藤 清一・須田 富夫

高松 昭士・石橋 由孝

奉納御礼
鹽竈講社大槌支部倉本支部

大内 好一・森山 克己

伊東 いわ子・山田 耕

長の御母堂倉本キエ氏より御芳志の奉納がありました。これに対し宮司より感謝状を贈呈しました。

大原原支部(二名)
本郷 清三郎・日下 正雄

菊地 糸子・河東田 園子

この御芳志により、東神門下に「陸奥國一宮鹽竈神社」の石標柱を製作設置する予定であります。完成次第お知らせいたします。

東京城南会(一名)
本郷 清三郎(一名)

村瀬 君夫・島野 智之

高原 和夫・柏木 亜矢

◇三十年表彰
松田 悦男・富木 直

岩出山講(一名)
白井 喜子

塩釜報恩講(一名)
佐藤 一臣

板宮 勝雄・二瓶 林吉
佐藤 正己・青木 賢治

大原原支部(三名)
加藤 光男・五十嵐 清一

鎌田 三津子・伊藤 俊直

成沢 貢・遠藤 生夫

今野 邦明

児玉 宗雄・佐藤 強

敬神婦人講だより

皇居勤労奉仕

当社敬神婦人講では昨年十月二十四日から四日間、皇居勤労奉仕団(団長宇仁講長以下講員二十三名、事務局二名)を結成し宮城に赴きました。前日に出発した一行は武蔵一宮水川神社を正式参拝し、無事上京しました。

奉仕初日、午前七時三十分皇居桔梗門に到着し二の丸地区周辺を清掃奉仕。皇居東地区の天守閣跡、桃華楽堂、宮内庁楽部庁舎、都道府県の木、大番所、中雀門跡などを宮内庁庭園課の方に案内いただきました。奉仕終了後は日枝神社を正式参拝し初日の日程を終えました。



皇居伏見橋にて記念撮影

夜には宿舎において団長より団員一人ひとりに賜物が手渡され、各々勤労奉仕の喜びと有難味を噛み締めての懇親会となりました。五泊六日の長期にわたる事業となりましたが、団員一致団結し、終始みな笑顔で奉仕できたことが何よりでした。

二日目は宮中三殿を参拝させて頂き、周辺の清掃奉仕。仮賢所や天皇陛下がお手植え遊ばされる水田、大道庭園などを参観しました。三日目は午前十一時より赤坂御用地にて皇太子殿下より「御会釈」を賜り、殿下より団長へ婦人講の活動についてのご質問や東日本大震災へのお見舞いのお言葉を賜りました。結びに、当日の奉仕団体代表の音頭で万歳三唱いたしました。午後より赤坂御苑西側の清掃奉仕。暑い中でしたが、心地良い奉仕となりました。

最終日は宮殿地区の参観、奉仕。天皇陛下よりの賜物を団長が拝受しました。午後に予定されていた両陛下の御会釈は三笠宮様薨去により中止となりましたが、陛下よりの御言葉が侍従職を通じて伝達されました。

仙台キリスト教育見院

七五三詣

当社敬神婦人講では、社会福祉事業の一環として昭和三十三年から毎年、仙台キリスト教育見院「丘の上子どもホーム」の院児たちを七五三詣に招待しております。

昨年十一月十二日、七五三に該当する十一名の院児を招き、お祝い致しました。御祈禱では緊張気味にかしまつていましたが、婦人講員と一緒に志波彦神社前でハトに豆をあげたり、大講堂で食事等するうちに打ち解けた様子となり、楽しい一日となりました。



七五三詣

菊花展

去る十月三十日から十一月十三日まで、神社馬場を会場に「第六十六回塩電市菊祭り」が開催されました。

秋の境内に彩りを添えた出品花のうちから厳正な審査が行われました。

その中大菊盆栽競技花の部において佐藤正芳殿、大菊盆栽七本仕立て花の部において星定信殿が神社賞に選ばれたほか、多くの方々作品が

各団体の賞に選ばれ、十一月十三日、神社大講堂にて表彰式が行われました。



博物館だより

平成二十九年新春特別展

「新春刀剣展」開催

仙台藩では、多くの刀工たちが活躍しました。

この度の展覧会では、仙台藩お抱えの刀工を中心に、郷土で活躍した刀工たちの作品約三十点余を展示いたします。

これらの作品を通じ、私たちの身近で活躍した刀工たちの歴史と日本刀の魅力の一端に触れていただければ幸いです。

◆観覧料金
一般(含大学生)三〇〇円
高校生以下無料

ば幸いに存じます。御参拝の折には、ぜひ博物館にお立ち寄りいただきますよう御案内申し上げます。

◆会期

平成二十九年一月一日(日) ~ 一月二十二日(日)

◆開館時間

午前八時半~午後五時まで
(会期中は無休)

◆観覧料金

一般(含大学生)三〇〇円
高校生以下無料



刀 一関士宗明

ご結婚おめでとうございませう

この九月から十一月の間左記の方々が当社御神前にて華燭の典を挙げられました。(敬称略)

九月

仙台市 廣瀬 竜也
仙台市 佐々木 悠
仙台市 菅野 賢志
仙台市 佐藤 稚子
仙台市 菅野 賢志
仙台市 井筒 祐介
仙台市 井筒 円佳
東松島市 佐藤 一機
黒川郡 鈴木 周子
フランス シヤルドントマ
仙台市 相澤 里枝
栗原市 佐々木 昂
栗原市 高橋 夕貴
登米市 佐々木 俊介
仙台市 渡邊 美佳
北海道 境 政幸
大崎市 高橋 美幸

岩手県 松留 宏
多賀城市 田口 薫
千葉県 飯田 裕久
仙台市 高瀬 朝子
栗原市 三塚 要
多賀城市 福原 美紀
登米市 渋谷 亮人
登米市 熊谷 千春
塩竈市 尾形 裕介
青森県 平山 園子
岩手県 佐々木 広生
兵庫県 藤原 由紀子
登米市 皆川 桂英
岩手県 金野 結依
イタリア ルッジエーロ
仙台市 スイモネッテイ
仙台市 赤坂 恵利加
仙台市 平林 丈晴
岩手県 藤田 千明
加美郡 尾形 明憲
加美郡 藤井 瞳

十月

石巻市 阿部 耕哉
仙台市 新川 春美
登米市 加藤 寛
登米市 大石 貴子
北海道 小林 広幸
石巻市 新田 奈々美
塩竈市 菊地 和也
登米市 袋地 好美
仙台市 阿部 巧
秋田県 吉田 襟子
牡鹿郡 勝又 正興
多賀城市 阿部 真弓
大崎市 今野 隆之
栗原市 佐々木 光恵
山形県 的場 可典
千葉県 大貫 香菜映
多賀城市 遠藤 学
仙台市 熊谷 清枝
仙台市 及川 尚彰
仙台市 青山 明日美
大崎市 大谷 拓史
東京都 犬飼 聡子

十一月

宮城県 加藤 寛樹
神奈川県 石橋 歩
石巻市 石森 秀峰
塩竈市 加藤 菜緒子
千葉県 岩井 俊樹
千葉県 林 絵里子
千葉県 榎崎 裕輔
仙台市 杉山 未帆
宮城県 柴 祐貴
岩手県 加藤 志保
塩竈市 末永 有哉
宮城県 泉 さやか
仙台市 小野 友輔
仙台市 秋田 千尋
仙台市 庄司 也磨人
塩竈市 加藤 未来
仙台市 小野寺 陸
仙台市 佐藤 美里
塩竈市 金沢 明彦
岩手県 小比類巻 まゆ
岩手県 下村 達志
岩手県 加藤 志織

愛知県 池田 裕樹
北海道 原 裕芽子
茨城県 山形 信一
岩手県 秋野瀨麻由子
多賀城市 小野 和通
仙台市 高橋 輝美
宮城県 星 勝彦
柴田郡 沼田 有紀子
塩竈市 市川 慶多
宮城県 芹川 皓子
塩竈市 野里 良平
北海道 田中 友香里
仙台市 高泉 圭
塩竈市 今野 祐希
仙台市 石川 淳一
仙台市 高橋 文恵
仙台市 川村 聡
塩竈市 鈴木 妙絵子
岩手県 千枝 繁樹
塩竈市 嶋 由佳理
仙台市 藤澤 至
多賀城市 澤井 寿美

参拝記録

九月から十一月にかけて、当社を正式参拝された方々を左記に御紹介いたします。
(敬称略)

九月

- 二日 國學院大學大学院客員教授 中西正幸氏
- 五日 國學院大學指定実習Ⅱ受講者 三名
- 六日 宮城県商工会議所女性連合会 六十名
- 十八日 洗心講 講長 明石正三氏ほか世話人八名
- 二十一日 東北式内社顕彰会 十六名
- ” 日本遺産プロデューサー 本田勝之助氏 ほか四名

- 二十五日 安達太良神社奉賛会青年部 二十名
- 二十七日 黒磯神社大世話人会 二十名

十月

- 二日 新潟県燕市燕弥栄会 四十名
- 七日 海上自衛隊第四十一掃海隊 司令 増澤寛治二等海佐 ほか九名
- 十二日 全国総社会 十八名
- ” 金刀比羅神社研修旅行 十五名
- 二十五日 遠野郷八幡宮 二十名

十一月

- 十日 鹽神社氏子総代会 二十七名
- 十七日 天神社保存会 二十四名
- 十九日 岩手町盛岡広域森林組合 あすなろ会 二十一名
- 二十八日 岩手県月山神社総代研修旅行 十名
- ” 磯貝道子氏 ほか四名

御座船チヨロQ製作

塩釜商工会議所創立七十年を記念して製作された、御座船チヨロQの頒布奉告祭が昨年九月三十日に斎行されま



居合道奉納

昨年十月二日、大日本居合道長谷川英信流錬道会による居合道の奉納が行われました。この流派は江戸時代に長谷川英信が開いたもので、居合のみならず剣術・小太刀・棒術さらには槍術・薙刀術も伝える総合武術として伝承されてきました。

当日は金子寛二会長をはじめ会員九名が左右宮において会員の益々の技術の向上や会の発展を祈願し、舞殿におい



て日頃の鍛錬の成果を奉納しました。境内に響き渡る気合に、参拝者らは足を止めて見入っていました。

した。このチヨロQは商工会議所の佳節に、日本三大船祭りの一つである塩釜みなど祭で、鹽竈神社の御神輿を奉安する御座船「鳳凰丸」を再現したものです。当日は市長・会頭をはじめ関係各位が参列し、みなど祭の益々の発展を併せ祈願しました。祭典後、市内各保育所幼稚園児を代表し香津町保育所の子どもたちに贈呈されました。子どもらは、早速チヨロQを走らせ楽しんでいました。神社では、このチヨロQと身体健康守を併せて千八百円で授与しています。

養成所通信

当社神職養成所では昨年十月二十五日から十一月一日にかけて、神職養成機関普通課程合同実習Ⅰに参加しました。神宮に全国の養成機関生徒一同が集い、実習に取り組みました。各講師より神宮の祭祀や歴史などの講義を受けたほか、「理想の神職像」についてそれぞれ意見を交わしました。

現在一人での実習生活を送っている生徒にとって、団体行動の大切さを学んだようです。実習終了後は修学旅行を実施し、近畿地方の著名大社を参拝しました。



実習の様子

